

平成28年度

ポリシーブック

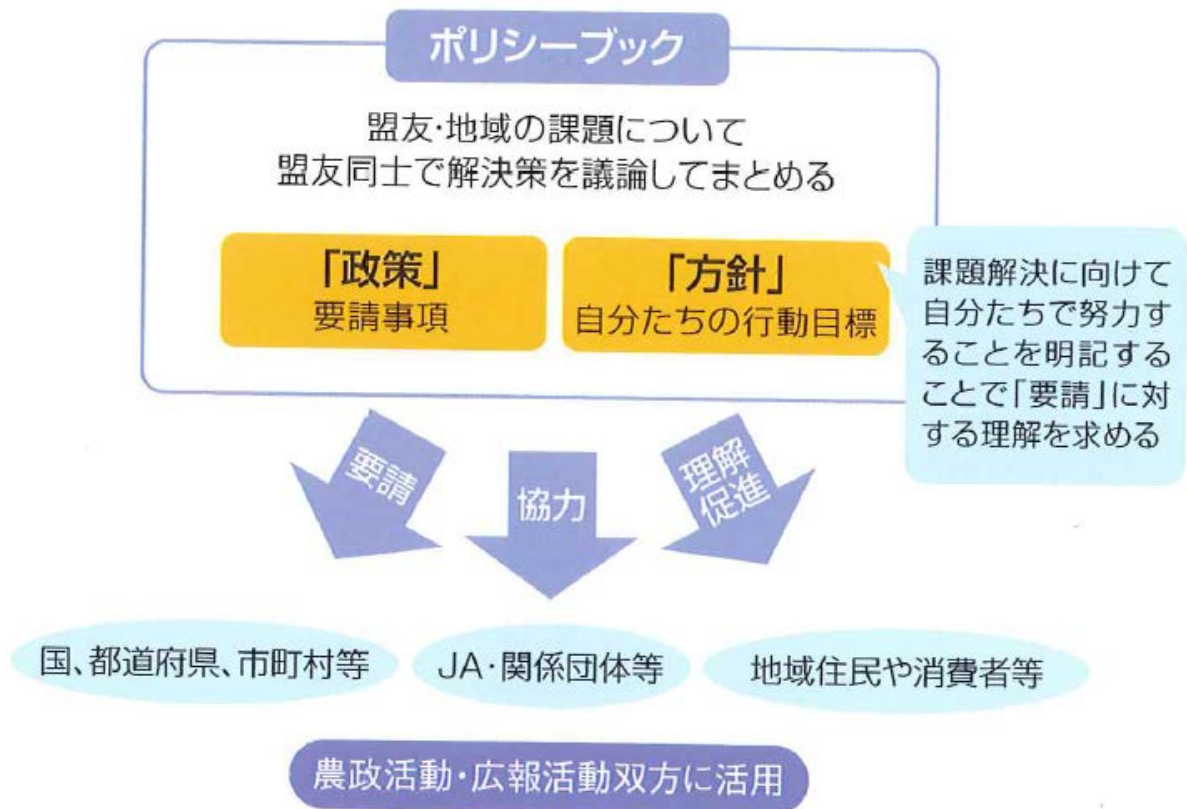
「20年後の目指すべき農業の姿」
～持続可能な力強い農業の実現に向けて～



JAかながわ西湘青壮年部

ポリシーブックとは？

- ポリシーブックを一言で表すと「青壮年部の政策集」。
- 盟友一人ひとりが営農や地域活動をしていく上で抱えている課題や疑問点について、盟友同士で解決策を検討してとりまとめたもの。
- 政策として要請するだけでなく、まず自分たちで解決に向けて努力し、取り組むことを明記している。
- 「自分たちの行動目標」と「積み上げによる政策要望」の両方を備えたもの。



目次

1. 農業政策について
2. 農業理解運動および食農教育について
3. 農業経営の確立について
4. 盟友の加入促進、組織活動の活性化について
5. 盟友の婚活について

【1. 農業政策について】

1. 現状

国内農業は、まさに激動の時代を迎えている。T P P交渉や農協改革の議論が加速する中、農家の高齢化・耕作放棄地の増加など深刻な問題を抱えている。一方で、平成27年4月には都市農業振興基本法が制定され、農業振興・農地保全に新たな方策が示されている。また、J Aかながわ西湘においては、T A Cの導入、営農企画課の新設など営農指導・農業基盤が整備・強化され、担い手にとって追い風となりつつある。

2. 個人・青壮年部として取り組むこと

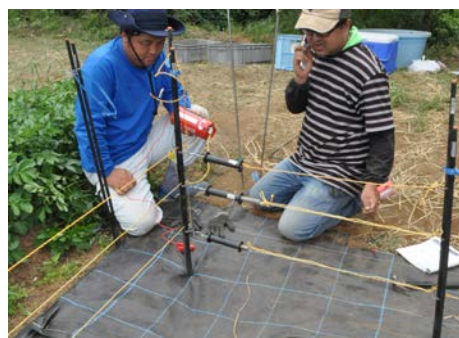
- ①狩猟免許の取得・鳥獣害に関する正しい知識習得による自己防衛
- ②農政等についての勉強会・学習会などの積極的な参加や企画

3. J A、行政等へ要請すること

- ①耕作放棄地解消へ向けた具体的な対策措置（地域や行政・J Aなどが一体的に取り組む体制整備が必要）
- ②T P P交渉について、局面に応じ適切に対応する
- ③有害鳥獣対策の整備（防除策、捕獲策、捕獲後の対応策）
- ④税制度（相続税や消費税など）の変更について農業者の立場を考えた政策をとる



イノシシ



支部での電気柵設置

【2. 農業理解運動および食農教育について】

1. 現状

地産地消を基本に地元農業や農産物をPRするJA主催のイベントなどが開かれている。食農教育では学校農園や農産物の収穫体験などに取り組む学校が増えており、農家やJAでも積極的な支援に取り組んでいる。当青壮年部においては支部単位で、小学校や幼稚園・消費者に対する農業体験をはじめとする理解運動を進めている。

2. 個人・青壮年部として取り組むこと

- ①農業や食の大切さを若い世代に伝えていくため、土と触れ合う機会を積極的に提供する（一般消費者や子どもを対象とした食農教育・婚活等）
- ②学校給食での地場農産物の利用促進
- ③さまざまな形でのアピール活動（オリジナルシール作成・のぼり旗作成・街頭PR・朝ドレファーマーミ♪ハルネ店対面販売など）

3. JA、行政等へ要請すること

- ①農地の斡旋と管理、使用資材の提供
- ②食農教育関連のイベントの積極的な実施
- ③各市町のまつりなどでのPR



子どもへの食農教育



まつりへの参加

【3. 農業経営の確立について】

1. 現状

農業従事者の高齢化や担い手不足とあわせ、燃料価格等の高騰により経費負担が大き
いことが農業経営を継続するうえで阻害要因となっている。

2. 個人・青壮年部として取り組むこと

- ①販路の拡大（部員間での受託販売、インターネットなど）
- ②有利販売への取り組み
- ③経営の収支、リスクを分析し対応する力をつける
- ④継続が困難となった農家などの農作業の受託
- ⑤先進技術の習得

3. J A、行政等へ要請すること

- ①将来にわたり安心して農業が継続できるような体制づくり
- ②営農指導の更なる充実
- ③販路の拡大への支援・協力等
- ④J A役員との定期的な意見交換会の場作り
- ⑤J A関連部署やT A Cとの意見交換会の場作り
- ⑥先進技術に関する情報提供



シール



J A役員との意見交換会

【4. 盟友の加入促進、組織活動の活性化について】

1. 現状

全国的に農業後継者や担い手が不足し、新規の盟友となる部員も減少傾向にあり、組織の弱体化が懸念されているが、

当部では、活動の充実・増加・見直しを数年かけて進めたことで、近年、部員増加が進み、更に新たな活動を展開する可能性が広がっている。

2. 個人・青壮年部として取り組むこと

- ①青壮年部としてのイベントを積極的に開催し、魅力をアピールする
- ②横のつながりを重視し、新規就農者の不安を解消できる仲間づくり
- ③青壮年部員のみにも適用されるメリットの構築（農産物販売の販路拡大、資格取得講座など、婚活イベント等の独自企画）
- ④異業種との積極的な交流
- ⑤地域リーダーとしての役割を果たす（各種勉強会、農政運動）

3. JA、行政等へ要請すること

- ①新規就農への確実なサポート及び新規就農しやすいような体制づくり（補助金、農地の斡旋）
- ②市町の祭りなどとタイアップしたイベントの開催



学習会



JA広報誌へ協力しPR（座談会）

【5. 盟友の婚活について】

1. 現状

青壮年部に加入する若手後継者の中には独身が多く、女性との出会いの場が少ないとの意見も上がっている。青壮年部独自の婚活イベントを実施することで盟友の結婚をサポートするとともに、加入を促進するメリットとなっている。

また、婚活イベントをきっかけとした交際や結婚という明るいニュースも届いている。

2. 個人・青壮年部として取り組むこと

- ①農業体験を交えた婚活イベントの実施および農業に興味のある独身女性への呼びかけ
- ②農業体験などの受け入れ態勢の構築
- ③部員数増加の宣伝材料としても活用し、組織の活性化につなげる

3. JA、行政等へ要請すること

- ①募集・運営のバックアップ
- ②県内外のJA青壮年部・行政主体の婚活イベントについての情報交換



農業体験 de 婚活